令和４年度第２回高砂市総合教育会議　会議録

令和５年１月２６日（木）高砂市総合教育会議を高砂市役所本庁舎４階特別会議室において開会

出席委員

市長	都倉　達殊
教育長	玉野　有彦
委　員	山名　克典
委　員	吉田　美香
委　員	神尾　信作
委　員	吉屋　　章

出席事務局職員

総務部長	荻野　章広
総務部総務室長	吉金　仙人
総務部総務室総務課長	樽家　正治
教育部長	永安　正彦
教育部教育推進室長	木田　　匠
教育部学校教育室長	藤原　秀樹
教育部教育推進室教育総務課長	三木　千鶴
教育部学校教育室学校教育課長	福永　慎也
教育部学校教育室学校教育課学務担当主幹	中西　貴人

傍聴者

６名

本日の議事

（１）　高砂市教育大綱について

（２）　令和５年度教育予算について

（３）　教育現場における今後のコロナ対応について

（４）　その他

○事務局
　定刻になりましたので、これより令和４年度第２回高砂市総合教育会議を開会いたします。
　まず最初に、市長から御挨拶をお願いいたします。

○都倉達殊市長
　本日は、令和４年度第２回目の高砂市総合教育会議の開催に当たり、委員各位には御多忙の中、また昨日からの大変、高砂市としては大雪に類するような状況でございました。先ほどまでもまだ車が渋滞しているような中、本当にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
　さて、総合教育会議は市長と教育委員の皆様とが公の場で教育行政について真剣に議論をすることで、高砂市の教育施策の方向性を共有をし、ともに進めていくことのできる大事な会議であると考えております。改めて、教育委員の皆様方には平素から高砂市の教育行政あるいは高砂市の子どもの健やかな成長に御尽力を賜っておりますことにお礼を申し上げたいと思います。年度末が近づき、慌ただしい時期となってはおりますが、皆様には前回に引き続き、忌憚のない議論をいただければと思っております。本日はまず、前半は新たに本市教育長に就任をされました玉野教育長と改めて高砂市教育大綱について確認を行い、また後半につきましては令和５年度の教育予算について、また次に教育現場における今後のコロナ対応について教育活動等における現状と課題につきまして議論をさせていただきたいと考えております。皆様にはそれらについての御意見等をお伺いをさせていただきながら、議論を重ねていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局
　ありがとうございました。
　それでは、昨年１２月に教育長が交代されておりますので、改めまして、本日の総合教育会議構成員の皆様を御紹介させていただきます。まずは、先ほど御挨拶いただきました都倉市長でございます。

○都倉達殊市長
　どうぞよろしくお願いします。

○事務局
　続きまして、昨年１２月より新たに教育長に就任されました玉野教育長です。

○玉野有彦教育長
　どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局
　続きまして、教育委員会の山名委員でございます。

○山名克典教育委員
　山名です。よろしくお願いします。

○事務局
　続きまして、吉田委員でございます。

○吉田美香教育委員
　吉田です。よろしくお願いいたします。

○事務局
　続きまして、神尾委員でございます。

○神尾信作教育委員
　神尾です。よろしくお願いいたします。

○事務局
　続きまして、吉屋委員でございます。

○吉屋章教育委員
　吉屋です。よろしくお願いします。

○事務局
　以上が本日の総合教育会議の構成員の皆様となります。本日は全ての構成員の皆様に御出席いただいております。なお、事務局の出席者の紹介につきましては、出席者名簿をもって代えさせていただきます。
　それでは、早速でございますが、これから議事に入らせていただきます。
　本日は、高砂市教育大綱について、それから令和５年度教育予算について、それから教育現場における今後のコロナ対応についてを議題として挙げさせていただいております。
　高砂市総合教育会議運営要領第４条の規定によりまして、市長が議事進行を行うこととなっておりますので、これからの進行は市長にお願いいたします。
　どうぞよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長
　それでは、次第に従い、議事を進めていきたいと思います。
　まず、一つ目の議題でありますが、高砂市教育大綱についてを議題といたします。玉野教育長のほうから、この高砂市の教育大綱につきまして御説明をしていただきたと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○玉野有彦教育長
　教育長の玉野でございます。
　お時間いただきまして、教育のことについてお話しさせていただきます。
　就任させていただいて１か月がたちますが、これからの高砂の教育はこうだというように現状に応じて進めていきたいのですが、まだまだリサーチ不足なので、現段階での私の考えとなりますが、今日はそれを述べさせていただきます。
　３ページを御覧ください。
　基本方針については、高砂を愛する人、思いやりとたくましさをいっぱい持ってる人をつくろうとするこの考えにはもう、そうだと思っています。このとおりの人づくりに取り組んでいきたいと思うんですが、もう少し具体的に目指す人間像と書かれてあるところにつきましても、これもそうだというような気持ちで思っています。自分の豊かな人生をつくるために生涯にわたって、夢や目標を持って頑張る人を作っていくんだ。そ

れと、よりよい社会を、自分だけでなくみんなと一緒にみんなの中で作っていくんだっていう人づくりについては、この方向性がすばらしいなっていうことを感じております。

４ページを開けていただけますでしょうか。

教育施策を行っていくわけでございますが、コロナの波が押し寄せて教育の分野においてもいろんな制限が加えられています。学校園、地域では一人で考えるということが多くなっています。仲間とともに一緒に活動するっていう場面が少なくなっています。今後は、共にとか、対話しながらっていうこと、協働をテーマに教育施策を進めていくことが大切だなっていうことを思っておりますが、教育施策の重点テーマが真ん中のところに書いてありますが、重点テーマ①のところなんですが、学校教育に関わる分野です。学校教育におきましては、３番の特別支援教育、１番の学力の定着と活用する力の育成、２番の地域との連携、協力した教育の推進につきましては、①の地域の教育力の向上。③の生涯教育につきましては、２番の芸術・文化振興の支援、文化財の保存・活用・継承について力を入れて中心に進めさせていただきたいと思っています。もう少し詳しく話をさせていただきます。

６ページを御覧ください。

重点テーマの２でございます。学びと成長を支える学校・家庭・地域が連携した教育の推進ですが、その下の基本施策①、その下の具体的施策（１）「地域とともにある学校づくり」を進めてまいります。この事業は、学校と地域が協働して子どもたちを育てていこう、それによって地域も元気にしていこうという事業であります。既に実施していることではあるのですが、地域が学校を応援する取組、例えば図書室の貸出しボランティアとか、職業体験とか副ボランティアなど、それから地域と学校が一緒になって行う取組、例えば花いっぱい運動、ふれあい祭りなど学校のメンバーと地域の代表がいろいろと学校と地域がどうやって子どもたちを育てていこうかを考えていくことをしています。教育委員会としましては、学校、ブロックの取組の状況を来年度は情報交換をしていく連絡会を持ちたいと思っています。また、地域とともにある学校づくりの考え方を教職員にも、それから保護者にも伝えていくようにしたいと思っています。さらに令和６年度にはなるのですが、事業に係る経費、委員に係る経費などの予算化も図っていきたいと思っています。

次に、地域と連携して進めていく教育のことなんですが、ここには書かれていませんが、スポーツ庁、文化庁の推進している事業でもある部活動の地域移行を段階的に地域とともに進めていきたいなというふうなことを思っています。もうこの事業につきましては、令和５年度からゆっくりゆっくり進めていきます。令和５年度にはコーディネーターを配置することであったり、庁内での体制をつくったり、市として地域移行推進委員会っていうものを仮称でありますが、設けて実証研究を進めていきたいと思っています。

それから、ページを戻ってくださいますようにお願いいたします。

５ページの重点テーマ、自立的に自己の未来を切り拓く力を育てる学校教育の推進でありますが、重点的に学校のほうにこのような教育をしてくださいというようなことを言っていこうと思うのですが、施策３番の特別支援教育の充実を図ってまいりたいと思っています。特別支援学級の児童生徒が増えております。また、通常学級においても支援を必要とする児童生徒も増えております。学校において、誰一人も取り残さないという言葉を合い言葉に協働体制を作って、教職員の研修も進めながら、全部の先生方で関わっていくような体制を作ってもらおうと思っています。また、介助員、スクールアシスタントの力も借りながら、その方々を適切に配置していただき、子どもたちを支援していきたいと思っています。当然、介助員、スクールアシスタントの支援力の向上も図ってまいりたいと思います。

もう一つのことなんですが、誰一人も取り残さないっていう教育の推進的な学校を設けまして、学校のそういう体制づくりもしていきながら、他校にもその考え方や取組を広めていきたいと思っています。

もう一つ、学校教育の取組なんですが、先ほど申し上げましたように、誰一人も取り残さないっていうような理念を基にしながら、みんなで学んでいる、どの子も学んでいるような授業を作っていくことを研修会、あらゆる研修会を通じて教職員、管理職に伝えていきたいと思っております。また、現在、学力向上対策会議を作りまして、学力の向上を行っているわけですが、ちょっと統一的な取組を推進していくようにちょっと活性化していきたいなって思っています。活性化のテーマとしては、言語活動の充実っていうことで、読む、書く、話す等の活動を取り入れた研究を進めていくように考えております。

最後になります。ページを７ページをめくっていただけますか。

生涯教育について話をさせていただきます。図書館、それから教育センターで学んだことをどのように広めるか。それから、保存、整備した文化財をフィールドとして体験したり探究したりする場となるような運営の仕方など、協議会の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

最後になりますが、高砂市の将来の教育の姿を考える部署を作っていきたい、あればなっていうことを思っています。例えば、教育施策の企画、立案を担当する部署であったり、教職員の研究心を高めることを担当する部署であったりというようなことがあればなっていうようなことを思っています。

以上となりますが、教育理念はこの大綱のとおりと変わりません。ただ、社会の変化が著しく進んでいってしまうこともあると思います。その場合は、新たな改革が必要となってくることもあると思うので、またそのときは提案させていただきます。お時間取りました。どうぞ、御指導いただきますようにお願いいたします。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。

玉野教育長のほうから、高砂市の教育大綱について全般にわたりましてお話をいただきましたので、各委員の方々から教育長に対して何か御質問なりありましたら、また御意見等をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○吉田美香教育委員

とにかく期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

私もずっと教育委員をしていて、子どもたちを本当に泣いてる子がいないように、一人も落ちこぼれる子がいないようにということをずっと思いながらしてきたんですけれども、最近思いますのには、子どもたちってほんとに種なんですけれど、育てなきゃいけない種なんですけど、やっぱりその種をまく土のほうもちゃんと耕して、肥料を入れて耕さないと育てるっていうのは難しいんじゃないかと思うようになりました。ということは先生方ですよね。先生方って高砂市の貴重な教育財産だと思います。いい先生がそろってるっていうことはとても市にとってもありがたいことですし、やはり子どもたちが集まってくる一つの原動力になるかなと思います。先生方に学ぼうとして、意欲のある先生方が学べる環境を作って差し上げるとか、何かそういうことも考えていってあげないと、やはり先生方が勉強って楽しいでっていう空気を出していらっしゃるかどうかっていうのは子どもに響くと思うんですね。まあ、いいやん、言われたことやっとったらええんやって生き方してると子どもに通じるんですよね、何となく。これは保護者もそうなんですけど、保護者がもう何か希望のない生き方をしてると、どうしても子ど

もに反映してしまう。ですから先生方を大事に学んでいける環境を、豊かな知識と、それから精神的にも余裕のある先生方を作っていくっていうために何ができるかなということを真剣に考えていかないといけないのかと思います。

そして、優秀な先生方が他市に流出しないように、そして志のある先生方が高砂市に集まってきてくださるような環境をつくるのに、やはりある程度研修やら図書やらっていうものも環境としてそろえなければいけないのかなっていうことも感じております。ですから、教育長さんがおっしゃっていたように、教職員のための研修やいろんなことっていうのも是非とも力を入れてもらいたいなと思っていますので、それについていかがでしょうか。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

今の吉田委員のお話の中で、玉野教育長のほうから何かございましたらお願いいたします。

○玉野有彦教育長

エールをいただきありがとうございます。

本当によい先生が、よいっていう規程が少し問題になるかなと思うんですが、子どもと一緒に学んでいって楽しいって思えるような先生が高砂市に根付いていただくことが一番子どもたちのためになるっていうことを思っています。まず、それは学校の中がそういう一緒に働いて楽しい、それから子どもを育てているのがうれしいっていうような体制が学校がつくられているかどうかっていうことを思っています。校長会を通じて、私の思いを話をしたことがあるんですが、校長先生自身や教員に対しても粘り強く誠実に、それから謙虚に、それから希望を持って関わってくださいますように１月の校長会でもお話ししたところです。学校自身がそういう環境であるっていうことが大事やと思うんです。吉田委員さん言われるように、若い先生が入ったときにそのモデルとなる方がいたら、ああ、こういうふうな授業をやったらいいんだなとか、子どもにこういう関わり方をしたらいいんだなっていうようなことを思えるので、そういう教員を育てていきたいなということを思っています。

○都倉達殊市長

ちょっと私も聞いてる話なんですけど、他市で教職員、新しい先生方、特に今回神戸市なんかは大量に職員を採用しますよね。教職員の方をサポートという中で指導教育をするような体制っていうのは、高砂市は今の現状の中でできてるんでしょうか。

○玉野有彦教育長

初任者に対しては、初任者を指導する教員を配置しまして、その先生が全ての学校の初任者に対して行けるように、月曜日はここへ、火曜日はここへ、金曜日はここへっていうようなシステムで初任者指導を行っています。

もう一つ、同じ指導する学年の中でメンター的な人を配置、役割を校長がつけまして、困ったことがあったら相談するようなことがシステム的に高砂市ではやってます。それがどの市でもおいても県からそういうふうなことをやってくれよっていうふうなことがあるんですけども、高砂市ではもう学年間でできるように校長が意思の疎通を図るようにしているところです。

○都倉達殊市長

他の委員の方で。

○山名克典教育委員

今、教育長言われました教員の研修に関してのことですけども、メンター方式とかいろいろあって、今までにもやられてきてますけども、神戸市の例が出ましたけども、神戸市に関しても結局、講座がいろいろあって、いわゆるそれをグループ化して結束すると、いわゆるボス的な形になって悪いほうに流れていったりすることあるし、いいほうにいけばそれなりの新卒の先生にいろいろなことを教えてもらってうまくいく。本来それが正しいんでしょうけど、ついつい仲間内の悪いことが増える。東須磨のああいうところが出てきた。西須磨からそちらへ出だしたと思うんですけど、実際それは別として結局それなりの制度が当然必要やと思うんですけども、特に僕、今つくづく思うのは、学校の先生方の資質向上するに当たって、結局何ができないのかいうたら、彼らに余裕がないということ、時間的な余裕がないいうこと。いわゆる学校の中での人材が非常に足らないということがもう大きな面だと思う。やはりあらゆることを仕事をどんどんどんどん、今までの積み重ねで仕事を増やしてきてて、その中で取捨選択して要らないものを何で切り捨てないんかなと思うぐらい、積み重ねて積み重ねて、どんどんどんどん仕事量を増やしてしまったために切り捨てられないものがありすぎて、そしたら全部が全部、今度のＩＴにしたってそうだし、結局今度また次に始まってくるクラブ活動の問題、いろんなことにしても次の議論になるんでしょうけど、あらゆることを継ぎ足して全部やっていって、そうしたときに学校の先生が本来しなきゃならない仕事は何であったかいうことをきちんとわきまえて、それはやはり要らないものは要らないで、それで地域に移行できるなら移行できるし、本当はやらなくていいものを本当に切っていこうという、そういうきちんと仕事の量を制限しないと先生それぞれにしたってスーパーマンじゃないんですから、やはりそれなりのキャパは当然あるんで、きちんと決めてあげたらないと、それでやはり今なおかつ人材がどうしても、高砂の中でもやっぱり人材不足そのものあって、結局前から言ってる余裕のある人材配置いうことが大事だって、市長にお願いしたいのは結局高砂市の教育向上は学力向上にせよ、いろんなことをするに当たって、他市と違う形として県費で足らない、やはりなおかつ高砂でプラスアルファをやりたいとき、それなりの先生の教育、余裕があるような形でできることもあるし、次の特別支援でもそうですけど、やはりプラスアルファの人がおったときの教育に余裕を持った、指導に余裕を持った形になると、やっぱりレベルがすごく上がると思うんです。体力的にせよ、働き方改革にしても、やはりきちんとした年休が取っていけるような、夏休みなんてまとめて取るんじゃなし、やはり月１回ぐらいは休めるような形になったとしてもいいんじゃないかと。何も休んで研修せなあかんいうわけじゃなく、やはり心の余裕を持つために明らかに休んで、それをみんなでカバーできる。今の状態やったら、少ない人数の中でカバーし合うという形があるんで、そこにするとサポート体制がうまくできなったりする先生方は本当は疲弊してる。そしたら、その疲弊してる者を助けてる先生がまた疲弊する。そしてそれが、そのスタイルが子どもに伝わりますし、保護者にも伝わりますから、そういうのをきちんとできたとき高砂の教育には余裕があってすごく子どもの心を素直に受け止めて対応してくれてるとか、そういうことが学力の向上あるいは環境の改善につながっていく。そういうのが非常に大事やと思うんで、そこは市長なりに英断をしていただいて、やはりプラスアルファ、高砂はこういう形で子どもたちに、あるいは先生方に対して余裕がある形で教育実施やっていってるんだという何かのそういう施策を示していただきたいなと思うのは思うんですけど、無理なとこあるんだと思いますけど、今回特別支援に関してはそれなりのスクールアシスタントとか、あるいは介助員の増員の認めていただいたことは感謝して本当にしてます。それ

でも、まだなおかつ足らないところありますし、やはり特別支援に関してはすごく本当に難しくて、今教育長が言いました学校の中での取りこぼし、いわゆるお客さんでおるような子をできるだけなくすような形をしていくような形も大事なんで、まず一番大事なんはそこにある人をみんな余裕のあった配置で結局していく。それで取捨選択して結局必要なことだけやって、先生方もやっぱりしなくていいものは捨てていこうと。今度は地域との協力をしていくときの中にも、それが余分な仕事にならないように、何でもかんでも地域としていって、それで地域に協力するに当たっても、これも予算が伴いますけど、クラブ活動の指導者の問題にせよ、結局地域といろんなコミュニケーションを取っていって、いろんな行事に教育長の考え方としては地域と連携やっていくと、いろんな子どもに対しての世代間の交代とか交流があるというけど、やはりそれがまた先生に負担になってはいけないだろうし、子どもにとっても、子どももやはり全ての子がそういうのが容認できる子どもではないということ。非常に今の子どもの多様性があって、昔の一面的な形で世代がそろった人がみんな交流したらうまくいくというわけじゃない。やはりそういうのをものすごく嫌った子どもが多様性いうのを容認して、いろんなパターンを作って考えていかなきゃならないのかなと思うんで、これから教育長とかいろいろ話し合って、いろいろ要求、こうしてあげたらいいんじゃないでしょうかっていうことは提案させていただきたいなと思ってますけど。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。今、山名委員のほうからは、教育環境といいますか、そういった内容でお話しされておりますので、委員の方で今の中で他の御意見ございましたら、よろしく。

○吉屋章教育委員

今、教育長のほうからもお話しありましたけど、大綱の中で教育長は一番に地域と連携というところを重要視されておられるということですけども、私もそれ同感でございまして、この大綱にあります重点テーマであったり、基本方針とか目指す人間と、こういうものを達成していくには、行政だけとか学校だけではなかなか難しい、そんな時代になってきてるのかなと思いまして、やっぱり地域とか家庭との連携っていうのは非常にこれから強化する必要があると思うんです、私も。

そんな中で、しかしなかなか行政からのアプローチとか、そういった地域へのサポートっていうものが薄いように私は感じるんですね。もっと行政が地域に入り込んで、地域と対話して、家庭も含めてですけども、そういう形で具体的にこうするんだというところを行政のほうが示して、ともに連携を強化していくっていうような、そういう体制を築き上げていただきたいと思うんですけど、もっとだから地域の力っていうものをもっと引き出してどんどん使っていったらいいと思うんです。

最後に教育長が今お話しされてましたけども、高砂市の教育を推進していくに当たって新しい部署をつくりたいんだというお話しありましたけども、是非地域と学校行政とのコーディネーター役ができるような組織を作っていただけたらと思うんですけども、これに関しては地域の力の重要性っていうか、そういうものに関してはちょっと私、市長のほうにもお聞きしたいんですけども、どのようにお考えか。

○都倉達殊市長

私のほうから、今、吉屋委員の方から地域との関わりというお話ありました。これは学校関係だけではなく、やはり今どうしても地域の中でいろんな年齢の差がありますけど、その関わり方のやはり人材不足というのがやはり言われております。ただ、その人

材不足っていうのはやはり各地域に温度差はあるにしても、今、吉屋委員のほうからありましたように、コーディネーターの方が入ることによって、そのまとめ方を工夫をしながらもやはり進めていく必要があると思っております。いずれにしましても、子どもたちとどういった関係の方々がいろんなことで一緒に関わっていただくという環境をまず作って、その中でいろいろ内容的には具体的に話をしながら進めていく。また、いろんな問題も発生するかも分かりませんけど、その都度その都度、やはり問題解決のためにみんなで話し合うような場をつくることが必要だと思っております。

○神尾信作教育委員

またよろしくお願いいたします。

玉野教育長さん、いろんな中で私が聞いた感じでは四つの大きな柱をおっしゃられたのかなと思いました。

まず一つ目が一番最初におっしゃったのが、地域とともにある学校づくりということで、本当に吉屋委員からの話もありましたが、本当に大事なことだなと思います。今、日本全体の流れが学校独自の力ではもう限界が来てるので、地域、社会と連携して協働していきましょうという流れにあると思うんですね。これ、先ほど山名委員さんがおっしゃったようなマンパワーの不足というところを地域の力で補っていこうということにもつながってくると思うんですが、例えば教育現場だけでいいますと、コミュニティスクールの導入がまず言われました。あと、最近のコロナ禍で家庭学習が増えました。ここで地域、家庭の力が必要になりました。それに併せて、また不登校が今随分増えてきてます。これもやっぱり解消のためには地域、保護者の力が必要かと思います。

もう一つは、先ほどから課題にもなってます部活動の民間委託、地域移行、これも全く地域の力で何とかしましょうという。こういうことを最近の大きな教育界の流れを見ても、いかにどのようにうまくコーディネーター等を使いながら、地域と学校がうまく連携するか、それが求められているんだなと思うんですね。以前からも例えば、放課後だとか、長期休業中には保護者に学校に来ていただいて、補充学習のお手伝いをしていただくような、そんな取組もやってましたけども、そういうことも含めていろんな場面で、どれだけ地域の大人たちが一人の子どもに関わっていけるか、その総量が多いほど、やっぱり子どもたちはその中で育っていき、またそういうことを通してまた高砂に戻ってきたいというふうなそういうことにつながるような気もします。

もう一つは、先ほど教育長さんが２回おっしゃった誰一人も残さないということにも、これは即直結するような、そういう大きな考え方だなと思います。ですので、本当にこれからどんだけ学校が我々が地域とともにうまく連携していけるか、そういう仕組み、計画をどんだけできるかというのが大事だなと思って聞かせていただきましたので、また我々も一緒にそれらを取り組めたらいいなと思っております。

あと、二つ目、三つ目ですかね、これは特別支援教育、これは山名先生がおっしゃったとおりだと思いますし、あと三つ目が確かな学力の定着があると思います。これも本当に全国学力学習調査がもう二十数年前始まってから、もうずっと高砂市の大きな課題として、ずっとそれもほぼ同じ分析結果で行くと、同じ分野で課題が残っている。ですから、これも何とかこれも地域の力を借りながら解決していかなければいけない課題だと思っておりますので、これにも我々も少しでも何かできることがあればと思っております。またよろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

今、委員のほうからいろいろ出ましたが、玉野教育長のほうで今の内容でもう少し入り込んだような考え方お示し、もしできるんであれば。

○玉野有彦教育長

特別支援教育のことからお話しさせてもらうんですけども、特別支援学級なり、本当に通常学級の中でちょっと支援の要る子がいるっていうことが子どもたちが人数が増えているというのは確かなんです。当然、その子どもたちに関わる先生の関わり方、支援力も高めていかなければいかないとは思うんですが、どうしても人があったらいいかなっていうふうなことを思っています。ただ、その人に任せっきりになってしまうのは駄目だと思うので、そういう体制をつくるために、先ほども言わせてもらったような、誰一人も残さないを合い言葉に進めていきたいなっていうことを思っています。

もう一つのことなんですが、全国学力学習状況調査のことなんですが、ちょっと正答率の悪い子どもたちの様子を見ていると、ちょっとその子どもたちが授業に参加してない場面が見られます。お勉強のできる子どもたちだけでお話ししているっていうのではなくて、ちょっと分からへんねんっていうことを言い合えるような雰囲気をつくりながら、その分からへんが広がっていくっていうか、その子どもたちも参加させていただきたいなっていうふうなことを思っています。

○都倉達殊市長

今の内容の話で言うと、やはり教員の方々もやはりお困り事があって、他の先生方といろいろディスカッションしながら、クラスによっても問題がいろいろ違うとは思うんですけど、そこのやはり教員間のいろんな相談事も含めて、あるときテレビで見たんですけど、学年の先生方が集まっていろんなクラスごとの問題だけじゃなく、進めていこうとする課題についても話し合ってる場がありました。やはり一人の担任の先生方が抱え込むことじゃなく、いろんな先生方と問題を共有して、そこでそれぞれが解決に向かって進んでいくような、何かそういう環境が僕は必要だと思うんですけど。

○山名克典教育委員

特別支援の判定委員の会議させてもらってますけど、今年も１００人ぐらいのいわゆる新たに小学校に上がって、この特別支援教室に入れるか、それとも通常か、あるいは特別支援学校に行くか、それらの審査をさせていただいているわけですけども、その中にいろんなことが出てくるわけですけど、それとは別に結局ボーダー上におる子がすごく多いんだと思う。だから、先ほど言いました取りこぼし、誰一人取りこぼしとか置いていかない、そういう形でする子。それに対しては、学校のクラスの中でいかに一斉教育、一斉で指示が出たときになかなかついてこれない子がおるわけです。その子に対する対応の仕方をどうするか。実際、特別支援教室に入ったとしたら、それは個別の指導として手厚いことはできるし、それで学校の中でそれでピックアップした子は学校の支援に対する検討委員会もありますが、そこでいろいろ対応して、クラスで先ほど市長が言われたような形で、高砂市においても教員がこの子に対してどんなふうにしていこうか、いわゆるどういう対応をしようかと議論されて対応していってるけど、そこに上がってこない、ピックアップされてるけど支援委員会で指導を出しても支援教室に入らないで通常教室におる。その中での授業の在り方でその子をどうするかいうことで、結局一人ぼうっとして、いわゆる授業の妨げにならない。例えば注意欠陥性の多動性、教室の中うろちょろするとか、教室出ていくとか、そういう特別な子でない限り、そこで一人ぽつんとおられてじっとしてる子がおったりする。それに対しての加配とか、あるいは介助員なりの対応があって、本当に少人数でできたらいけるし、今のクラス分けで、人数の多い中ではやはりそれなりに個々の子に対してどれだけ多くの介助員あるいはスクールアシスタント、それなりの者がおってくれたら、その子たちもできる、特別支援

学級に行かなくてもね。その子がやはりすごく多いと思うんですよ。比率がものすごく多いんで、今特別な名前がついて自閉症とか自閉症スペクトラムとか、あるいはＡＤＨＤ、検査で知的障害、発達障害ありますという感じのつかない子のそこをいかに対応してあげて、ゆっくりその子らのペースに合わせた状態で教育がしていける。そのためにはやっぱりスタッフが、先生方がみんなを教えらなあかん、それを手助けしてくれる先生がいなかったとき、やっぱりパニックになるだろうし、大変な状況あると思うんで、そこに対する配慮、やはり手厚い人材の派遣いうのがあれば、やはり学力向上、みんなのいわゆるレベルアップできるんで、そこが非常に大事なところだと思うんです。やはりボーダー上の子たちを、実際その子に対して中学生になったときには前からの話としてある、勉強のできる子は、ややついていきにくい子に対してグループとして教えてあげたりとか、いろんなことは学校のことでやってもらってるのはあるんで、それなりの効果があるけど、小学校のレベルとかいうときはなかなかそういうのはしにくい。それに対しては、人材不足がやっぱり学力向上につながらないのかなと思ってますけども、学校崩壊もあったりすることありますから。

○都倉達殊市長

他、委員の方で、今の関連じゃなくてもいいんですけど、教育大綱に対して何かありましたら。

他、ありませんか。

ありがとうございました。

それでは、二つ目の議題にさせていただきます。令和５年度教育予算についてを議題といたします。資料の説明をお願いいたします。

○永安正彦教育部長

教育部長です。

それでは、資料の御説明いたします。

資料８ページをお願いいたします。

先ほど、議題にもなりました高砂市の教育大綱及び高砂市教育振興基本計画におきまして、三つの重点テーマを挙げております。令和５年度の当初予算の案につきまして、この三つのテーマごとにまとめてお示しをしております。なお、この令和５年の当初予算案につきましては、現在調整中のものでございますので、現時点での予算を１００万円単位でまとめております数字でございますので、従いまして、この数字がそのまま予算書として計上されるものではございませんので、その辺は御注意ください。

教育関係予算につきましては、毎年、教育委員会から市長に対しまして予算要望を行っております。令和５年の予算については昨年１１月２４日に教育長と教育委員の皆様に御出席いただき実施をいたしました。その要望事項の中で、令和５年度予算の重点要望事項として挙げておりました１２の項目について取り上げて御説明いたします。

まず、１点目として挙げておりました特別支援教育に係る支援員の充実でございます。これにつきましては、資料の重点テーマ１の下から６番目にあります特別支援教育推進事業、この中で計上をされております。人数につきましては、令和４年度と比べ５人増となっておるところでございます。

２点目の医療的ケアが必要な児童生徒に係る看護師の配置につきましては、予算書上は先ほどと同じ特別支援教育推進事業として計上をいたしますが、この資料では分かりやすいようにすぐ下に特出ししてお示しをしております。令和５年度におきましては、必要な学校２校にそれぞれ１名ずつ配置を予定をしております。

３点目のスクールサポートスタッフの継続につきましては、重点テーマ１の上から１

１番目、教育振興事業に今年度と同様に各校１名ずつ配置する経費が計上されております。

４点目の子ども多文化共生サポーターの配置につきましては、特別支援教育推進事業におきまして必要な学校２校にポータブル翻訳機を配備する予定でございます。

５点目の情報教育推進事業の拡充につきましては、学校のネットワーク環境改善のための大規模な整備事業、これを前倒ししまして３月補正予算で対応する予定でございます。

６点目の荒井地区の公立こども園の開設につきましては、市長部局におきまして荒井保育園を認定こども園化する改修工事を予定しておるところでございます。

７点目の学校給食費の公会計化のスタートにつきましては、重点テーマ１の上から１２番目の学校給食事業に必要な食材の購入費等の経費を計上しております。

８点目の学校施設の補修工事につきましては、重点テーマ２の一番下の各小学校、中学校補修事業及び、次のページ、資料９ページの一番上の学校施設建設事業に必要な経費が計上されております。

９点目の文化財保存整備事業の推進及び１０点目の文化財保存活用地域計画の作成につきましては、これは重点テーマ３の下から３番目の文化財保護・史跡保存整備関連事業に必要な経費が計上されております。

１１点目のプール清掃の委託化につきましては、重点テーマ２の２番目の小中学校運営管理事業に清掃及び消耗品を購入する経費を計上しております。

１２点目の学校における感染症対策の充実につきましては、これも事業を前倒しして３月補正予算で対応する予定でございます。

簡単ですが、説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

委員の方から御意見をいただきたいと思いますが。

○吉田美香教育委員

いろいろ増やしていただきありがとうございます。いつも無理ばっかり申し上げますけれども、子どもたちのためなのでよろしくお願いいたします。

先ほど申しましたように、先生方のための研修というのもここに教職員研修事業っていうのが出てるんですけども、それから先生方は学ぶためにやっぱり本って大事なんですよね。子どもたちのためには、図書室とか図書館で非常にたくさん本をそろえていただいてまして、ありがたいことなんで子どものこと優先にしていただいて本当ありがたいんですけれども、先生たちも勉強するためにやっぱり本を読む場面ってあると思うんです。それを必要な本は自費で買わなきゃいけないというよりも、学校にちょっと手に取れるところにあるとか、そういうことも考えていってあげたほうが若い先生のためにはいいのかなとか思いまして、何か備品になるのか、ちょっと項目を私分からないんですけれども、そういうことでそちらのほうにもお金を少しずつ回していけるようなことを考えていったほうがいいんじゃないかなということを感じています。何か学ぼうと思ったときに目の前に手に取る本があるってすごく大事だと思いますし、それが本当に本なのか、どうなんでしょう。これからの若い先生だったらタブレットで使えるようなもののほうがいいのかもしれないですけれども、ちょっとその辺、私分からないですけれども、そういうことに余裕を持って予算を取れるような方法も考えていかなきゃいけないかなと思うんですけど、それがどういう予算に組み込まれて、どこにどうお願いするのかまでもちょっとよく分からないんですけれども、また先生方を育てて市の財産と考

えていくというような思いを市長さんもちょっとお持ちいただければ何かのときに御協力いただければなと感じていますので、具体的にはちょっと私分からないんですけれどもまたよろしくお願いできればと思っています。

○都倉達殊市長

教員の今の環境がちょっと具体的にどうなのかっていうのは私も現状を知らないんですけど、委員言われるように、個々の先生方がやはり意欲的に向上心を持って教育を考えていただけることが一番望ましいし、ベテランの先生方がどういう関わりをしていただけるのかっていうのもやはり大切だなと思ってまして、やっぱり若い先生方、特に一、二年の間はやはり教職課程を済んですぐに現場で教壇に立って、大変御苦労だと思ってます。ただ、そこにはやはりベテランの先生方がやはり今までの経験値をやはり教えてあげるのと、確かに学ぶための教材、また研修、どういった研修をしていただけるのかいうのは、夏休み期間中にあるんですかね、研修っていうのは主に。

○玉野有彦教育長

はい。夏休み期間が多くいうことなんですけども、あと教材研究的な、明日教えるのはどんなふうに教えるのかいうのは日常的にやっています。

○都倉達殊市長

やはり教え方もいろいろ多種多様にあると思うんで、その辺がやはり生徒に伝わるような教え方、神尾委員なんか特に経験がございますんで、よろしくお願いします。

○神尾信作教育委員

その経験を、少し。よく教育では不易と流行といいますか、昔からの伝統を引き継ぐ、新しいものを取り入れる。でも、その中でも何らかを削除していかなければいけないんですが、我々の新任の時代っていうのは、まず一番大きく違うのは日曜日だけ休みで、土曜日は普通にあったんですよね。ですから、我々が若いときには土曜日の昼からいろんな先輩にいろんなことをたくさん聞きました。自分の研修の場所はそこでした。あと、ストーブ談義っていうのがあって、今はもう空調ですけども、ストーブがどんと真ん中にあって何となく集まる。そこでいろんなことをたくさん教えていただくということが、我々の現場自体が大きく変わってしまったんで、なかなかこの不易と流行の不易の部分は、先輩から直接聞くということは今少ないんですよね。今、どうしても皆、パソコンの前に座ってこうやってて、隣におってもなかなかしゃべらないいうふうなそんなことなので、やっぱり教育長さんもおっしゃったように、いろんな研修の場を設けて、そこに集めて、そこでわざわざしないといけない。そうするとやっぱりなかなか伝わりにくい部分もあるんですよね。そうじゃなくて、ざっくばらんに言いたいこと聞きたいことをフリートークの中で教えてもらうほうがはるかに身につけておったんですけど、そんな過去のことを言ってても仕方がないんですけども、いずれにしてもそういうことも考えながら、やっぱりどんだけうまく伝えて、それを咀しゃくして、また子どもたちにフィードバックするかということをやっぱり今ならでのできることを工夫してやっていくしかないのかなと、そんなことを今思ってます。

○山名克典教育委員

今、吉田委員が言われたことの補足で、結局先ほどの教育委員会の中で話がありまして、結局、学校図書の話で、これはやっぱり言うとかなあかんと思うんで言うんですけど、生徒のための学校図書費はあるけども、先生のいわゆる研修、あるいは学校運営、

学級運営、授業スキルのそれなりのいろんな専門書があったとしたら、先生にとって参考になるそういう書籍を買う、デジタル的なもんであっても、そういう利用するに当たってのそういうのに対する予算はあるのかどうかいうことが話になりまして、結局そしたらそれが曖昧であると、先ほど言ったように予備費か備品とかそういう形ですけど、実際そこをきちんと高砂市においては結局先生方、若い先生も含めて、年配の先生方でも、やはり何ぼかそれなりの研修に当たって、先ほど言った集まっての研修とかウェブでするよりも、自分で好きなときにできるようなそれなりのものを取りそろえるに当たって、結局やはり研修費的な参考書を買う予算を例えばつけて、ある程度はやってくださいと。それなりの先生方の資質向上を図るためのそれなりの市全体、教育委員会として予算化してます。それ、授業でどんな使い方であったってかまへんけど、結局それなりの努力を、いわゆる勉強するため、研修するための予算は出しましょうと、それなりのことをしましょうということで提案していただいたら、先生方にとっても励みになるんじゃないかということもあって、実際にはそれがどんなふうに使われるかいうのは本当難しいところですけども、あったら先生方励みになって、それで高砂市はそういうことで先生の資質向上に対して、それがつながっていけば学力向上にもつながるいうようなことに長い何年間後にはつながっていくんじゃないかということで、やはりそれなりの努力を予算化するようなこともあってもいいんじゃないかという話が先ほどの教育委員の中でもあったんです。やはりそこは言って、教育研究費みたいなもんで。だから、実際具体的な例として、医院だったらナースにせよ、事務の子にせよ、いろんなこと、それなりのこと、専門的なことだったら要るもんがあったら、そうやって結局どんどんつける。いわゆる資格を取るわけじゃないですけど、スキルアップするためのもんはやっぱりしましょうという、やはりそこを夏の学校の先生方の集中的な研修いうても、ちょっとそれも今どういうふうな行われているのかちょっと理解しがたいとこもあったですけど、取りあえず、日々の研修してもらうところ、それを教育委員会が結局予算化して、結局やってくださいと。それがやはり将来、先生方のレベルアップにつながるし、子どもの学力向上にもつながるからやってほしいなということの提案でしたけどね。

○玉野有彦教育長

夏の研修会ですけれども、先生方に特別支援なり服務的なことも含めてやってるんですが、何かコロナがあって、それがちょっとできにくかったような状況があったように思います。集まったときにやっぱし、私こんなことで悩んでいるとかいうような話ができるような場の設定もしていきたいなっていうようなことを思っています。

○吉田美香教育委員

先ほど、山名先生も言ってくださったんですけど、学校図書館の図書の選択基準とか、それから廃棄基準についての先ほど教育委員会、定例会で話をしてまして、それで高砂市のそれ基準なんですけど、それの基にしていた、下敷きにしてたものが全国学校図書館図書選定基準っていう、そういう協議会の出してるものがありまして、それでは教職員による教職員のための図書についてもちゃんと規程があるわけですね。ということは、やっぱり全国的にはそういう考え方っていうのがやっぱりノーマルなんじゃないか。教職員に対してもちゃんと図書を用意して学んでもらうっていう姿勢がやっぱりちゃんと形ができてるんだなと思いましたので、どうして高砂市ではこれが入ってない。項目に高砂市はなかったんで、そうすると職員室の中に多分そういう本は別にあるんでしょうっていう話だったんですけれども、やはりそれは同時に子どもも先生も育ってもらわないとよくないし、やっぱり先生が本を読んでいて、こんな本読むと面白いよ、知識を得るって面白いよっていうことを子どもに伝えてもらいたいので、そこから出てきた話な

んです。やはりそういうことっていうのは、全国的にそういう発想でやってるんであれば高砂市もそうしていったらどうかなっていうことで話が出ました。

○都倉達殊市長
　教えていただきたいんですけど、教職課程で学ばれて教員試験通って、研修もありますよね、事前にね。教壇に立つ、また教壇に立ってからもやはり今まで教育学部で学んできたそういった教材なりいろんなたくさん書籍含めてあると思うんですけど、それとやはり現場に入ってくると、やはり現場でのいろんな、先ほどもお話あったように子どもたちへの指導の仕方が日進月歩変わってきてると思いますし、いろんなタイプによっても教え方があると思うんですけど、その辺は。教育長もまた事務員のほうからお話しいただいたら。

○神尾信作教育委員
　それこそ日進月歩の勢いで、どんどん指導法からスタイルから変わりますよね。一番分かりやすいのがＩＣＴだと思うんですけども、私が今例えば１０年前で５０代、６０ぐらいでＩＣＴ言われたら即効戸惑うかなと思うんですけども、そういうことがもう本当に、それは多分教育界だけじゃなくて、いろんなこう全ての業務に自分が若い頃できてたことが今はもう全然役に立たないというか、余り用をなさないみたいなことがあって、それはもう教育界も全く一緒で本当に変化してる。教えるほうも変化してるし、ましては子どもたちの様子も世の中全体の動き、家庭の動きとか全部違ってきてるので随分変化している。先ほど山名委員の名前もどんどん、いろいろたくさんの名前がついてしまって、それに対応しなければいけないって本当にもうなかなか、ちょっと前の二、三年前の学生時代の知識で現場に行ったんでは、もう即、駄目だよ、そこは、こういうふうにしないとというようなことになってると思うので、ですからそこに新任研修、初任者研修というようなのでいろいろやってくださってはいるんですが、もう毎日毎日やっていかないとなかなか対応できないのが、我々のとき以上に本当に何倍もそういうことが求められているのかなという感じは持ってますね。そんなことではないですかね。どうなんですかね。

○玉野有彦教育長
　ありがとうございます。
　１２月まではちょっと先生っていう立場で授業もさせてもらってたんですが、そのときに、今まで教えてきたんやから、そのやり方でやったらええやんかっていうようなつもりで言われるんですが、いや、３年生の社会の教え方とか、それとか特別な支援の要る子どもへの関わり方とか、それとか対話的に学ぶ授業のつくり方とかいうようなことをやっぱりもう一回読んで勉強を、その本を買って勉強したことはありました。だから、不安になるときがあるんです。これでええんかなとか、自分の指導はいいんかな、そういうときにちょっと自分で本を買って、ああ、こうなんやってみたいな感じでそれをまた授業に生かしていくっていうようなことをしていました。

○都倉達殊市長
　吉屋委員何かありますか。

○吉屋章教育委員
　別のことでもよろしいですか。

○都倉達殊市長
　はい、どうぞ。

○吉屋章教育委員
　情報教育の推進事業の件なんですけども、これがちょっとまだ残念ながらネット環境が高砂市においては不十分っていうことでなってるんですけど、これ非常に大きな予算でなかなかお金の掛かることなんですけども、やっぱりどんどんと遅れていってしまいますんで、こういう分野のことは。是非とも、要望に対して御検討を前向きにしていただいているようなんでございますけども、早急に適切な環境を整える。大胆な予算措置をお願いしたいと思います、ここに関しては。本当に金額が大きいとこなんですけど。

○都倉達殊市長
　ＧＩＧＡスクール構想が始まって私も現場、授業を見に行きましたけど、やはり一人一人のタブレットで動いてない生徒がおられるという現場も見ましたので、今教育の方から予算要求があって、通信環境、これをよくしようということで今進めていこうとしているところでございます。

○吉屋章教育委員
　なるべく安いところで何か抑えるというようなことではなく、もちろんそのつもりはないと思うんですけども、ちょっと余裕を持ってというか、いいものでお願いしたいと思います。

○都倉達殊市長
　授業の内容も変わってきてますし、当然昔と違って電子黒板使ったり、一人一人のタブレットでの授業がどんどんどんどん進んでおりますので、それに対応できるようにしていこうと考えているところでございます。

○吉屋章教育委員
　ありがとうございます。

○都倉達殊市長
　他、何か予算の関係でありますでしょうか。
　それでは、三つ目の議題にいかせていただきます。教育現場における今後のコロナ対応についてということを議題にさせていただきます。
　３年間、コロナがなかなか収束しない状況で、第８波も大変影響が大きかったわけですけど、学校現場におきましても給食の折、黙食をしてるとかいう状況がまだ現在続いております。いろんな国からの対応の中で、学校現場のハード面っていうのはいろんな対応をさせてはいただきましたけど、やはり子どもたちこの３年間、大変、給食だけではないんですけど、授業の中でもいろんな苦労をしながら、また教職員の方々もその中で試行錯誤しながら進んできております。そういった中で今後のまたコロナを見据えた中で委員の方々から何か御意見がございましたらよろしくお願い申し上げます。

○山名克典教育委員
　この春から４月に５類にするって言われてますけど、これに関しては医療サイドから行くと、なかなか５類になったからいうて、今の発熱外来いう形、うちは発熱外来で日に５０人から６０人診てるんですけど、大体そうするとそれを今、インフルエンザが今

はやってきてまして、現状を言いますと、先週の話でインフルエンザが六十何人出て、当然コロナもやっぱり三十何人ぐらい出てる。実際、発熱外来いうのが、医院の中へ入らないで検査して、コロナが陽性やったら隔離室で診ていくわけですが、そういう形で３５人ぐらい出とんです、やっぱり。前まではずっとやっぱりコロナが多かって、今年になってから突然にインフルエンザが出てきて、明らかに先週はコロナが１で、インフルエンザが２。その前はフィフティフィフティぐらいやって、だんだんだんだん、そういう感じになってインフルエンザが増えとうけど、やっぱり５類になったからいってコロナがなくなるかいうたらなくなってないんで、そしたらどうするんだろうということになると、医療サイドでのきちんとした方針は全然まだ医師会館を通じたり、厚生労働省からも何も通達来てないんです。だから、実際みんなでどんなふうにするんでしょうねという形のがいろいろネットとか中では、やっぱりしばらくはやはり発熱外来を継続しながらやっていかなあかんので、おればやはり感染力も強いしいうことで、実際の厚生労働省が言ってるように、一般外来で、一般の診療所、今まで発熱外来診てなかったところも診てくださいっていうけど、やっぱり病院に来て、医院に来てるのはやはり基礎疾患があっていろんなことがあって来られてるところで、うちなんか小児科も内科もありますんで、大人も診てますから、大人もやっぱり来てると。そこに発熱の人を無条件で入れるのはほとんど不可能ですので、やはりなおかつ、政府が言ってるのは段階的に徐々に緩和していくっていうけど、ウィズコロナと言いながら、やはりお年寄り、高齢者並びに基礎疾患のある人とコロナと一緒の部屋におることはできないで、そこの医療サイドでの診察はそうですけど、学校の中での子どもの中で今までのここ二、三年の間に本当に学校の中でクラスターみたいなもんがどれだけ起こったいうことになると、学校の中ではほとんどなかったんじゃないか。高砂においてはほとんどゼロだったと思うんで、今現状としてどんなふうにしていったらいいでしょうかいうことになると、全く自分の私自身の意見としては、もう学校の中ではフリーでいいでしょうという感じに近い状態で思てます。だから、黙食いうよりも、もともとずっと一緒に来てる子ですし、授業の中で御飯食べるときとか以外に勉強中、あるいは遊んでるとき、それでどれだけマスク着用してるとは言いながら接触してるから、ずばり言って普通の今してるようなマスクがどれだけの効果があるんだろうということも本音あるし、ましてこれがどこまで本音で効果あるかいうことを考えたら、ほとんどパフォーマンスだと思てますので、もう学校の中ではできれば子どもたちに自由にしていってあげていいんじゃないか。２年間、３年間のマスク生活送ったから大変で、それを外せよ言うても今すぐ外せないのは子どもの現実としてあるのは事実ですけど、やはり環境どんなふうにしていったら対応としては学校の中ではもうやはり普通にしていいんじゃないですかねいうのが、どこまでそれを子どもたちを慣らして解放して基のコロナ前の状態まで戻していってあげるのかなということで僕は思てますけど。

○都倉達殊市長
　他、何か。

○神尾信作教育委員
　僕は基本的な考え方としては、コロナが扱いが変わってくるんでしょうけども、今後の考え方としてコロナがあってたくさんの悪いことがあったんですけど、悪いことばっかりじゃなかったので、ウィズコロナという考え方でコロナ以前の元の状態に戻そうという意識じゃなくて、違う世界というか、違うやり方をしていこうという考え方がいいのかなと思うんです。例えば、よかったこととすれば、一気にタブレット、１人１台というの一気に計画より二、三年早く進みましたし、それに続いてオンラインでの学習も

できたので、普通の欠席であってもオンラインで学習できるようになりました。マスクの着用が徹底されて、他の感染症への対策もできたような気がします。ですから、まるっきり悪いことばっかりじゃなかったので、その部分はこれからもちゃんと生かして、コロナ以前に戻すんじゃなくて、新しいやり方だというふうに考えていくのがいいのかなと思ってます。

その中で気になることが二つあって、一つは長欠生と不登校生が増えてるんですね。これはもう明らかに新聞事例でもありますけども、学校を欠席するというここの発想が随分低くなって、それは子どもも保護者も本当に休んでもオンラインで勉強できるという安心感もあるんですが、これ本当にハードルが低くなったな。やっぱりそういう中から体力面も、それから学習面も遅れたり劣ったりしてきてますよね。ですから、これはやっぱり保護者の方にこんだけのことをやってますよ、安全なんですよ。先ほどの話じゃないけど、クラスターも出てませんよということをしっかりアピールしていく必要がある。再度、休むことがやっぱりマイナス点、オンラインではやりますけど、やっぱり実際に行ってするのと全然違うし、当然集団で動くことの利点っていうのは学習すること以上に大きなことがあるわけですから、そこはやっぱりそう簡単に休まないと、できるだけ登校しましょうということを再度アピールする必要があるかなということが１点と、もう一つは教職員の負担感、精神的にも体力的にも新しいことをたくさんやってますから、本当に疲弊していると思います。ですから、そういうことへのサポート、先ほどから出ている人材の確保とかを含めて、そういうことを子どもたちへ向けて、保護者へ向けて、そして教職員に向けては、そういう現場の教職員はやっぱり疲弊してるなという気がしますので、そういうところのサポートをしっかりしていただけたらなと、そんなことを思います。

○吉田美香教育委員

マスクを外すとか、黙食じゃなくてしゃべるとかいうことを子どもたちの逆にストレスにならないようにということを私はちょっと心配するんですけど、私たちは元に戻そうっていう大人目線で言うんですけど、子どもにとっては元は、元からマスクしてるっていうのが自然な子どもたちもいるわけですね、ちっちゃい子たちにとっては。そうすると、外させること自身が本人にとって恥ずかしかったり、ストレスだったりっていうのもありますし、黙って食べるということに慣れてると、しゃべれって言われることがしんどい子もいるわけですよ、中には。ですから、その辺は自然に時間を掛けて、子どもが自然にそうなるように待たなきゃいけないのかなって。私たちの目線でこのほうがいいだろうっていうのでやっちゃいけないのかなっていうのを最近感じます。ですから、子どもたちは本当にもともとからマスクっていうものが定着してちゃってる子もいますから、その辺は本来、成長のためには笑顔っていうのはもともと持ってるもんじゃなくて見て覚えるらしいですから、表情が見られないっていうのは非常にリスク大きいんですけれども、それを無理にそうしないようにっていうふうに御理解いただけたらいいなと思っています。

○都倉達殊市長

私もそう思います。何月何日からもう変えますよっていうようなことじゃなくして、やはり少しランニング期間を持って、やはり子どもたちの精神状態を周りが考えていきながら、家庭でもそうやと思うんですよね。やはりこの３年間、家の中でもそういった対応をし、また保護者の方々も大変苦労されたし、また学校現場も校長先生をはじめ、教職員の方々がいろんな面で最初、もう本当に苦労されてるのを見てますから、これからじゃあ、外しましょうっていうのも思い切ってじゃあ、やることが本当にいいのかど

うかいう問題がありますね。食事のときもそうですけど、やはり徐々に徐々に慣らしながら、ああいうこともあったねっていうふうに振り返ることができるような状態に早く、急ぐことが確かに精神的にプレッシャーになっていくかもしれませんので、そこはやはり教育委員会とも調整しながらやらせていこうかなと思っております。

吉屋委員、何か。

○吉屋章教育委員

私も同じなんですけど、今おっしゃったように、急に元に戻すっていうことをするのもまた難しいことで、そうだと思うんです。大人がもう今普通に生活してるわけじゃないですか、大体、職種によりますけどもね。子どもだけがやっぱり我慢してるっていう部分が非常に多くて、その辺はちょっと心が痛むんですけども、だからすぐにマスクを取りなさい、給食の時間楽しくしゃべりなさいじゃなくて、コロナがあるから学校の行事とか中心に、これはできませんっていうことから、これはもう取り払っていただきたいですね。強制的にじゃなくて、これはやりましょうというような形でね。ふだんの生活のマスクやその辺は本人に、子どもたちに、各家庭に任せたらいいと思うんですけど、全体的なルールとしてコロナがあるからこれができない、コロナがあるからこれはやめときましょうっていうのは取り払っていただきたいと思いますね。

○山名克典教育委員

マスクの功罪で慣れの問題もあるんでしょうけど、実際子どもの目線からいわゆる非常に過激な発想としての感覚としても、子どもがいわゆる子どもを見るとき、赤ちゃんなんかは抱っこされたら下から見てて、親の顔を確認してるけど、それ、視線によって変わってくるんですけど、これだけマスク、もう３分の２隠したような状態では子どもの意思の疎通そのもの、コミュニケーションが取れなくなってきて、結局心の発達とか、いわゆる表情の表現の仕方とか、それに対してすごくネガティブの部分がいっぱいあるんで、だからそういう意味から行くと、徐々に慣らせと、一斉に外せとは言いませんけど、結局徐々にできるだけ早い目に顔を全部は見えるような形の状態とっていかないと、それが本来の人間のスタイルであって、これが一番大事なことやからお互い顔を見合って話合いをする。それがコミュニケーション、人と人とのつながりですからね。やはりマスクがあることは必ずしも、これはもうできるだけ慣れがあるでしょうけど、早く解放してあげたらんと、子どもの幼児教育とかいろんなものにやっぱり影響。先ほど言った不登校に関しても実際コロナ、いろんなやっぱり、いろんな状況、環境が変わるから、そういうレベル的に学校へ行くことへの意識が下がって、もう行かなくてもいいやんという心理的なもんもあるし、それで今度顔を会うと、今度は恥ずかしいとか。さっき僕は極論としてマスクの効果どれだけのもんがあったんでしょうということは言いましたけど、あえてアンチの話で言ったわけで、そういう意味で絶対的に今すぐとは言わないけど、外すことはすごく大事なことだということを分かってほしいんです。

○都倉達殊市長

教育長の方から何かありましたら、コロナに対して。

○玉野有彦教育長

私からは、給食の様子を学校に見に行ってきました。パーティションをして食べているんですけども、苦しそうには食べていません。マスク取って、そんなによくは話してないけども、お代わり食べへんのとか声を掛けたりとか、お箸忘れとったらもらいに行きよとかいうような会話は普通にやっています。マスクを外しているんですけども、小

さな声でやっているようなんですが、さて、それが３年から６年生ぐらいまではそういうような会話をしているんですけども、１年生、２年生になってくると本当に頑張って食べてます。それが小学校のルール、食べるときのルールに染みついているので、さあグループ組んでしゃべりなさいって言っても、本当にしばらくはそのままやと思うんです。そういうようなことを、給食を食べさせてやりたいんやけども、食べるときにしゃべらなあかんじゃなくて、自由にしゃべっていいよぐらいでとどめていうような指導をしていきたいと思うんですが、ただ、パーティションをいつ取るかっていうようなことを教育委員会で考えていきながら、５類になったらっていうようなことを政府の方は言うてますので、少しそういうことも考えていきたいなっていうことを思っています。

○都倉達殊市長

ありがとうございました。

他、何かありますか。

それでは、一応、三つの議題は終わりまして、その他ということで何かありましたら何でも結構ですので。

図書室の話も出ましたけど、実はある方から学校関係に寄附をされまして、子どもたちのために図書を増やしてほしいということで、今各学校単位でどういう内容の図書を増やすかということについて進めていっていただいておりますが、教育委員の方々にこの件で何か御意見ございましたらよろしくお願いいたします。

○吉田美香教育委員

寄附についてなんですけれども、やはりいろんな方が言ってくださってもお受けできない寄附もあるじゃないですか、変な話ですけれども。そういうとき、やっぱり先生方とっても困られるんですよね。せっかく厚意でしてくださってるのに、それお断りするのもすごくお断りしにくいしっていうことで、前々からそういうことっていうのはいろいろありまして、それで私の個人的な考え方としてはやはりある程度、基準っていうかルールを、寄附をいただく場合のルールっていうのをつくっといたら、もしもお受けするにしても、お断りするにしても、そのルールを基にお話しするっていうのは相手の気分を害さないとかいろいろいいんじゃないですかとかいう話はしてたんですね、教育委員会の会議の中で。こないだ、名古屋市のものですけど、やっぱり名古屋市もそういうルールを決めてて、逆に今、寄附するならこれを買ってくださいみたいなのも一緒に書いてあるんですよ、できたらこれもっと欲しいのでみたいな。何かそういうものを作っていくと、寄附をされる方も今これが市の教育現場で必要なんだな、じゃあこれを寄附しようかなみたいな形もとれるし、そういうのつくったらどうですかみたいなので名古屋市の資料を部長にお渡ししたところなんです。

○都倉達殊市長

ありがとうございます。

事前に余りラインナップを整えると、何かしてくださいっていうふうな難しいとこなんですけどね。

○山名克典教育委員

ちょっと思い出したんですけど、学校の中でこの前、前の教育委員長のときに、最後の教育委員会のときですけども、結局学校の校舎を掃除するに当たって、掃除機の寄附の話が卒業生からかどなたかするって話しましたけども、結局もしそれを受けたとしたら、結局それはゆくゆくいつか壊れますよね。壊れたとき、それを次どういうふうな形

で掃除機、今はみんなほうきで掃いてどうしてるのを、実際に風が吹いたら掃除機のほうがはるかにきれいに取れるし、実際必要だろうと。でも、これを今回その人の寄附があるからいうことで、それ買うたとしたら、壊れたとき誰がどないして補充していくんでしょうと。そのときの単発の寄附があったときに、よかれと思って、そのときは本当うれしいと思うんですよ。でも、あと、それが壊れたとき、次まただれが、次の例えば学年とかＰＴＡとかいろんなとこがひょっとしたら団体がしてくれるかもしれん。次、それを義務的な形で押し付けるような形になってくるんも困るでしょうし、そしたら恒久的に必要なもんだったら当然市の備品として買うべきもので、いわゆるそのとき問題になったんが、違う話ですけど、レベルが違いますけど、掃除機でする学校の掃除いうのは、今やほうきでする、ちりとりでするレベルじゃないでしょうと。掃除機はやっぱり学校にあってしかるべきでしょうというのがあって、そういうのやったら掃除機はやっぱり自分らで買う、学校で市の備品として買うていくべきでしょうという形。それで、それとは別に寄附をされたらいろんなそういう、壊れていくもの、野球部の話があったときに、野球部で昔やったらバイクを改造して軽トラックを改造して増力するけど、そしたらそれも一応、ゆくゆくは壊れていった。ほんなら次どないすんねんいうことなって、市はそんなん買う予算がないと言ったとき、ほなそれを次の人たちは買うてくれ、買わへんのんかいう形でプレッシャーかけてきようことになったり、そこの寄附の仕方の問題で、継続した寄附をお願いできることはベターやけど、なかなか難しいことで、図書にしたってどれにしたって、図書やったらそれは単品で終わってある程度古くなったら廃棄させてもらいますいうことでいけるでしょうけど、使うようなもんだったとしたときは難しいなという、そういう寄附の仕方いうの、どんなんでしょうという形があって。

○吉田美香教育委員

その基準のやつに、やっぱり他校とのバランスが著しく悪くなるようなものとか、そういうのもあったんですよ、その受けられないものの中に。だから、維持費にお金が掛かるとか、それからあと学校にもともと備品としてあるべきものとか、それの管理のためのものとか、そういうのは受け取らないとか、そういうルールってやっぱり要ると思うんですよね。ないと、あそこの学校だけあれあるのにって、どうしてもなりがちなんです、保護者的には。何であそこは掃除機で掃除してんのに、うちの子たち掃いてるのみたいな。ですから、やっぱり寄附いただくにしても、ある程度何かルールがあったほうがいいかなとは感じています。

○都倉達殊市長

確かに、要りますね。またその辺はちょっと検討してみます。

他、寄附もそんなに度々はないんですけど、確かに言われるように市としても、また教育委員会の中でもそういったルール化をすることがいいという考えの中では整備をしていく必要があると思っております。山名委員おっしゃったように、備品的なものでやはりそれが壊れたときに、次じゃあ、それの代わりっていうものをじゃあ、市は対応できるのかいう問題が出てきますので、大きなものであればなるほど大変なことになっていきますので、その辺はよく判断をして受けたいなと思っております。

他、ございませんでしょうか。

よろしいですか。

それでは、特になければ今日のこの総合教育会議、これで終了させていただきます。

どうもありがとうございました。